

はっぴいバス事業評価について

1 事業の目的

2 利用状況

※ 収支状況

利用の面から

経費の面から

事業の目的に
沿っているか

利用者は増
えているか



収支率は？

はっぴいバスの事業指標（変更前）



項目	指標	備考
事業の目的	公共交通空白地域の解消	
	多様な世代の外出支援	乗込み調査、祝日運行等
利用状況	利用状況（北コース）	1便あたりの乗車人員 15.0（人/便）
	利用状況（西コース）	1便あたりの乗車人員 15.0（人/便）
<参考指標> 収支状況	収支率（全体）	前年度収支率と比較して改善されたか

はっぴいバスの評価指標の変更



令和4年6月からルート変更によりコース数が増加

➡ 指標の見直しが必要

- | | | | |
|---|-------------------------|-------------|-----------------|
| ① | ルート変更に伴うバス停数の増加率 | 47→53バス停 | 112.8 % |
| ② | これまでの指標で1年運行した場合の年間利用者数 | | 62,880 人 |
| | | ※262日の運行の場合 | |
| ③ | ルート変更後の年間利用者数 | ②×① | 70,907 人 |
| ④ | ルート変更後の年間利用者数を3コースで按分 | | 11.3 人/便 |

はっぴいバスの事業指標（変更後）



項目	指標	備考
事業の目的	公共交通空白地域の解消	
	多様な世代の外出支援	乗込み調査、祝日運行等
利用状況	利用状況（北東コース）	1便あたりの乗車人員 11.3 （人/便）
	利用状況（西コース）	1便あたりの乗車人員 11.3 （人/便）
	利用状況（北西コース）	1便あたりの乗車人員 11.3 （人/便）
<参考指標> 収支状況	収支率（全体）	前年度収支率と比較して改善されたか



1. 事業の目的に関する評価

- **事業の目的が達成されているか**を評価

事業目的は、

- ① 公共交通空白地域等の解消
- ② 多様な世代の外出支援

- 事業目的ごとに以下のような評価を実施

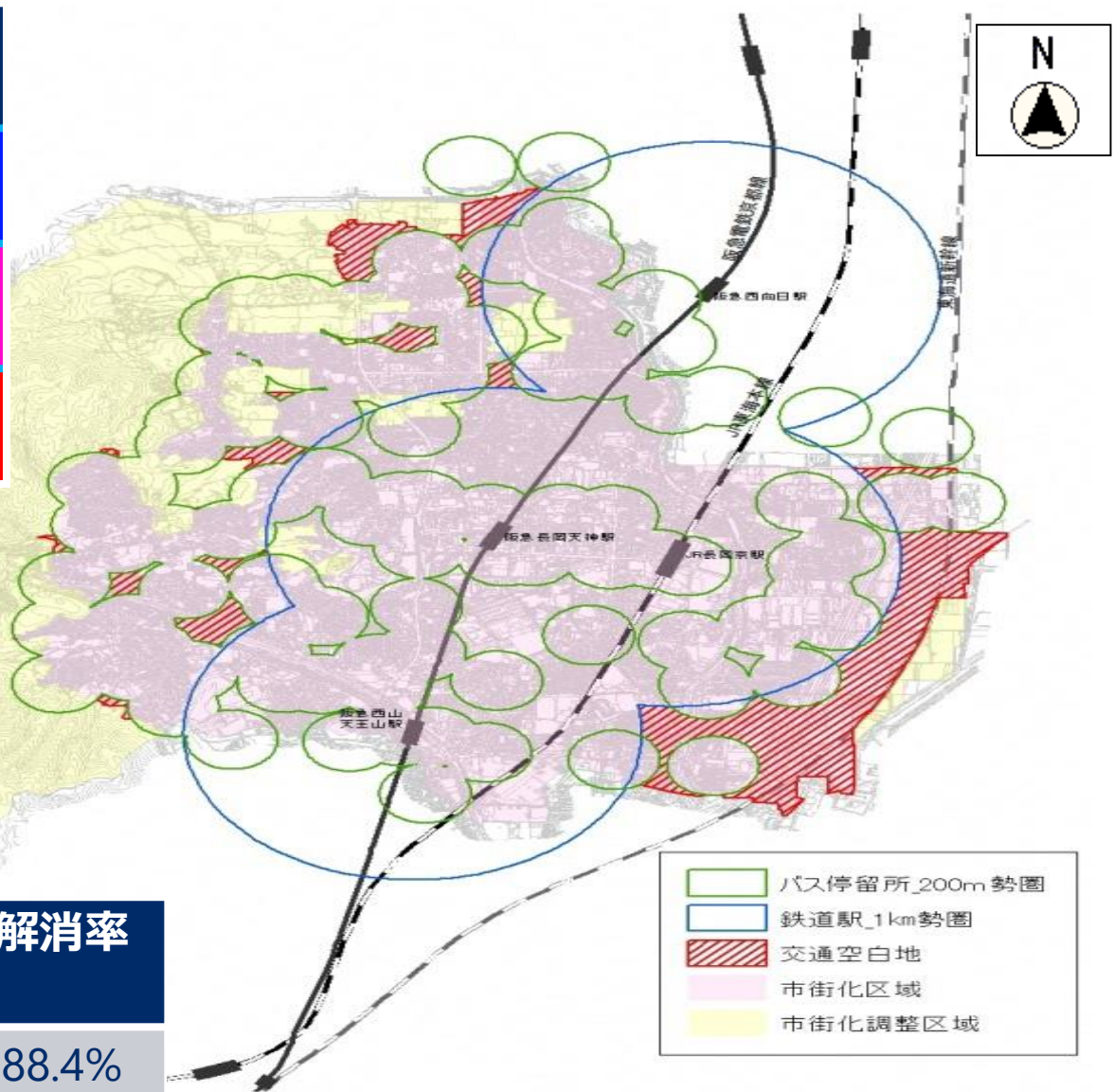
事業目的	評価
公共交通空白地域等の解消	事業前後で交通空白地域の解消度を比較 (以後、変化がないか定期的に検証)
多様な世代の 外出支援	利用者の外出頻度の状況を調査 はっぴいバスがどの程度貢献しているか検証



① 公共交通空白地域等の解消

バス	200m未 満2便/時 以上	200m未 満2便/時 未満	200m以 上
500m未 満	公共交通 利便地域		
500m以 上1km 未満		公共交 通 検討対象 地域	
1km以 上			公共交 通 空白地域

市街化区域 面積	公共交通 空白地域面積	解消率
958ha	111ha	88.4%

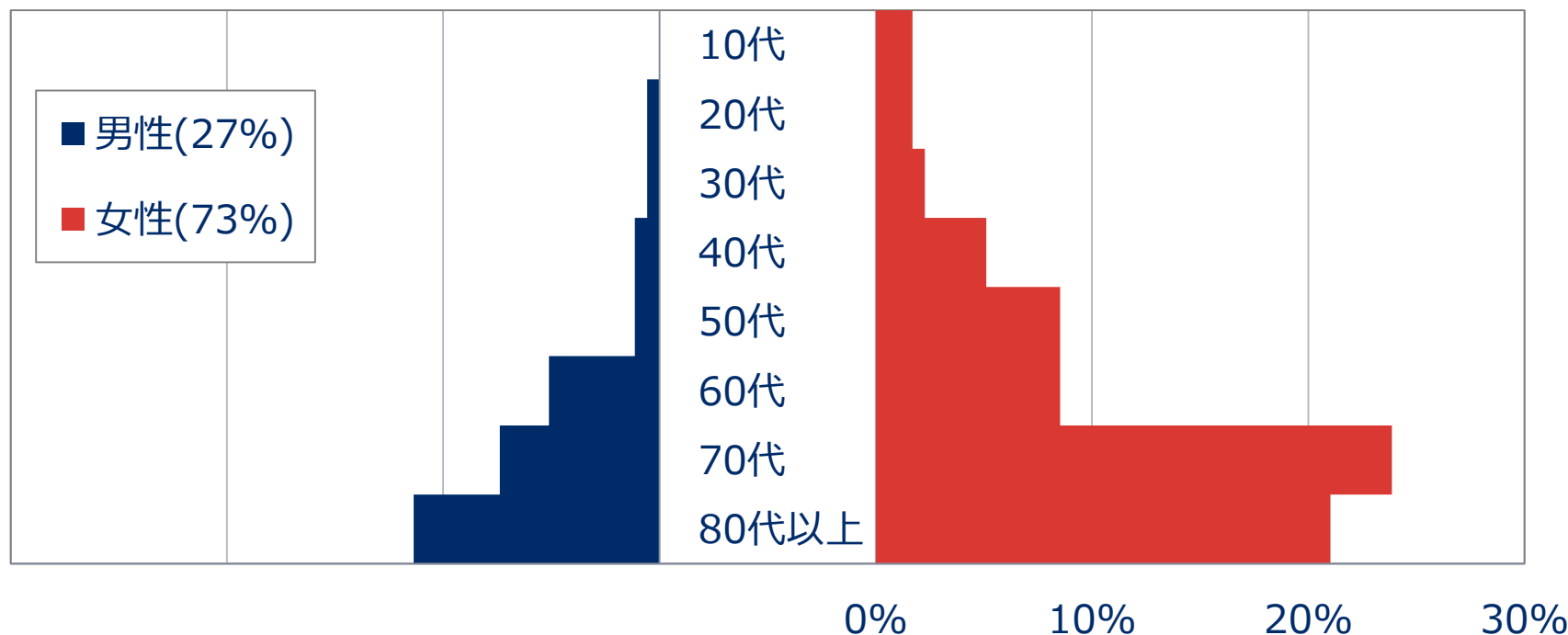


②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



- はっぴいバス利用者アンケートを実施
 - ・アンケート実施日：令和5年8月31日(木)
 - ・回答者：185人（各コース60人程度）

乗車客属性

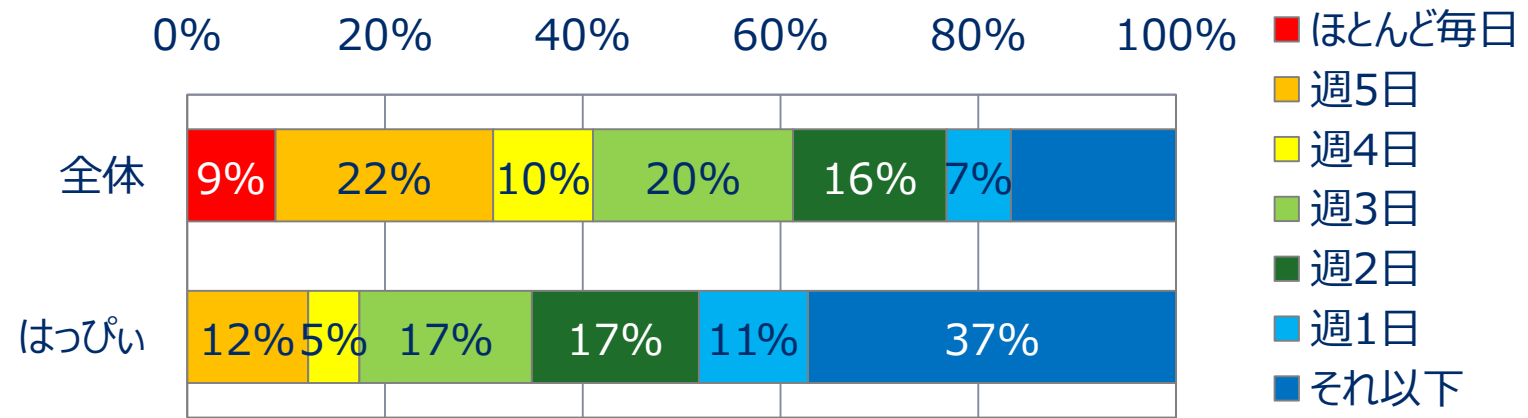


○回答者は女性のほうが多く、60歳以上の方が80%を占める。

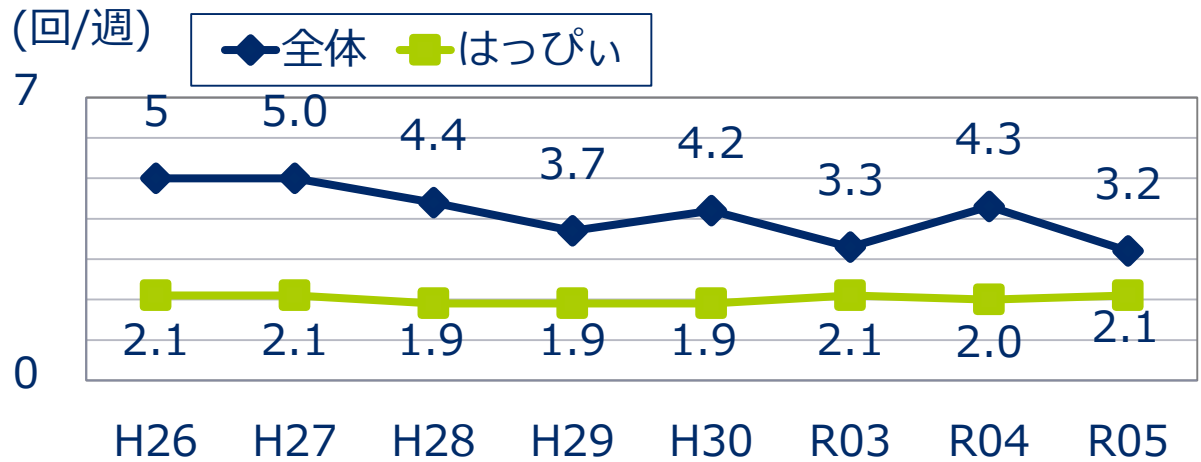
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



お出かけ頻度 (全体/はっぴいバス)



お出かけ頻度遷移

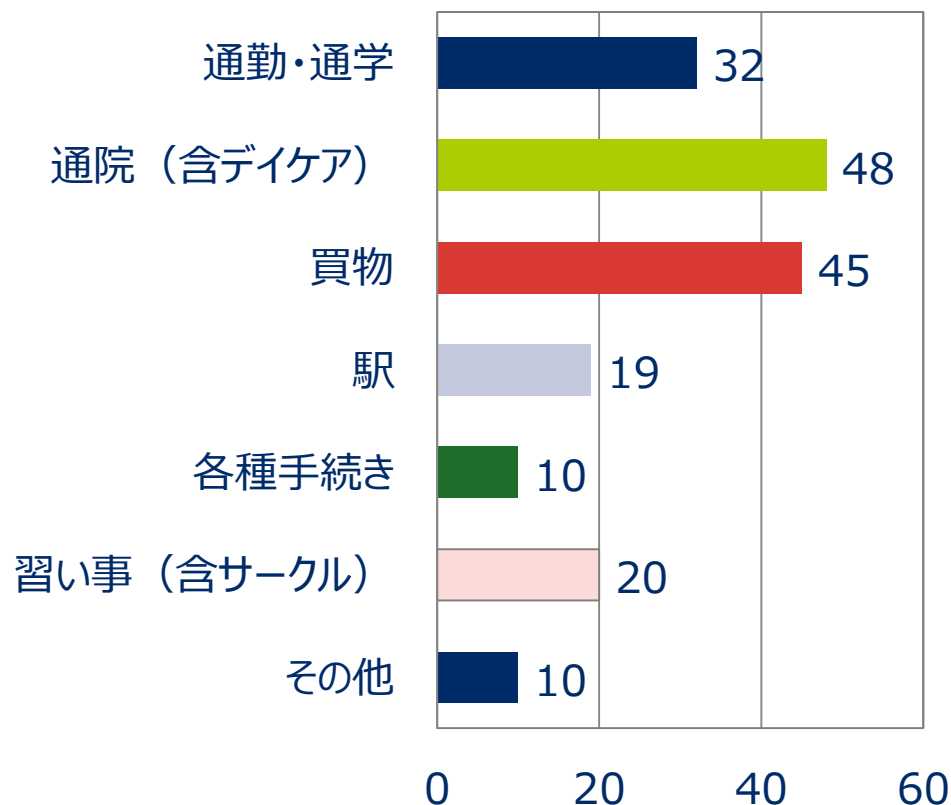


○お出かけ頻度は昨年度より減少している。はっぴいバスでのお出かけ頻度はほぼ横ばいである。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)

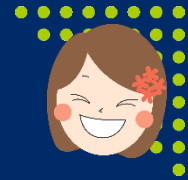


利用目的(SA)

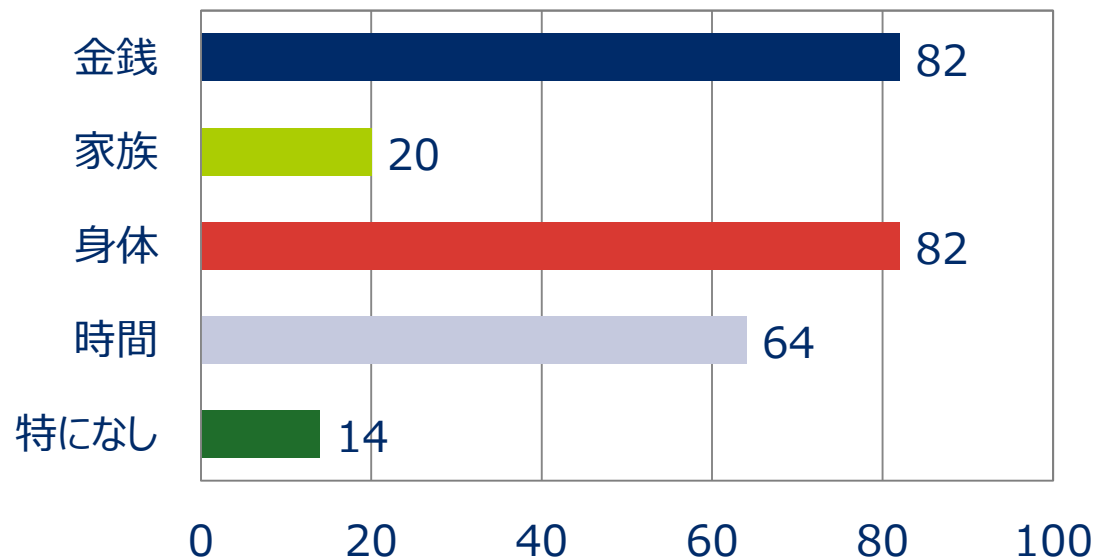


○「通院 (含デイケア)」や「買物」が多い状況である。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



負担種別(n=180,MA277)

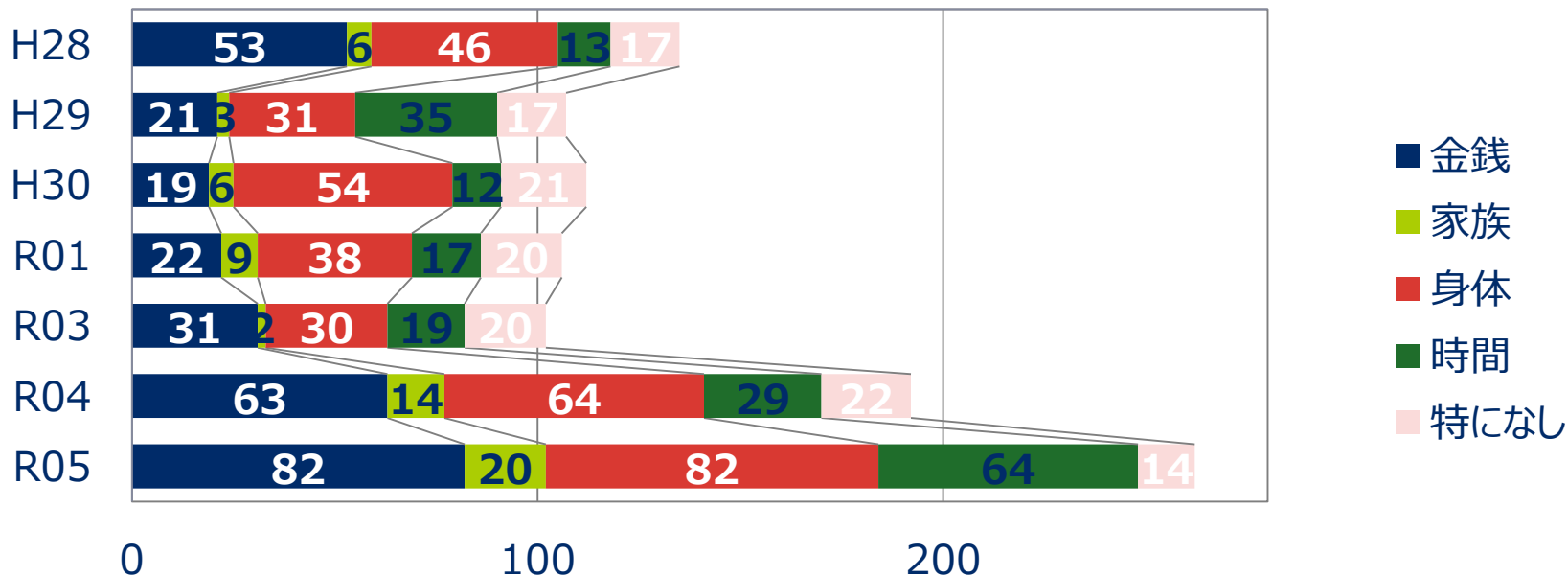


○はっぴいバスが無くなった場合の負担として、「金銭」と「身体」が同程度で最も多い。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



はっぴいバスが無くなった場合の負担遷移

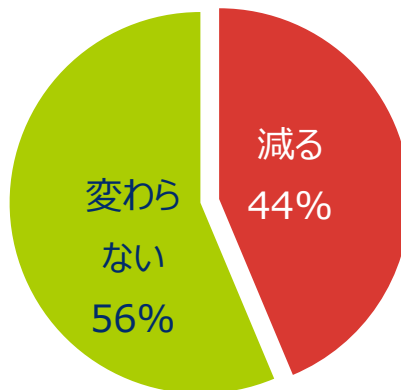


○近年では「金銭的な負担」と「移動のための身体的負担」の割合が多い傾向にある

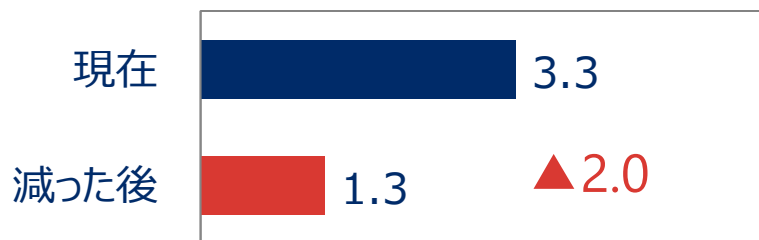
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



お出かけの変化



お出かけ回数の変化



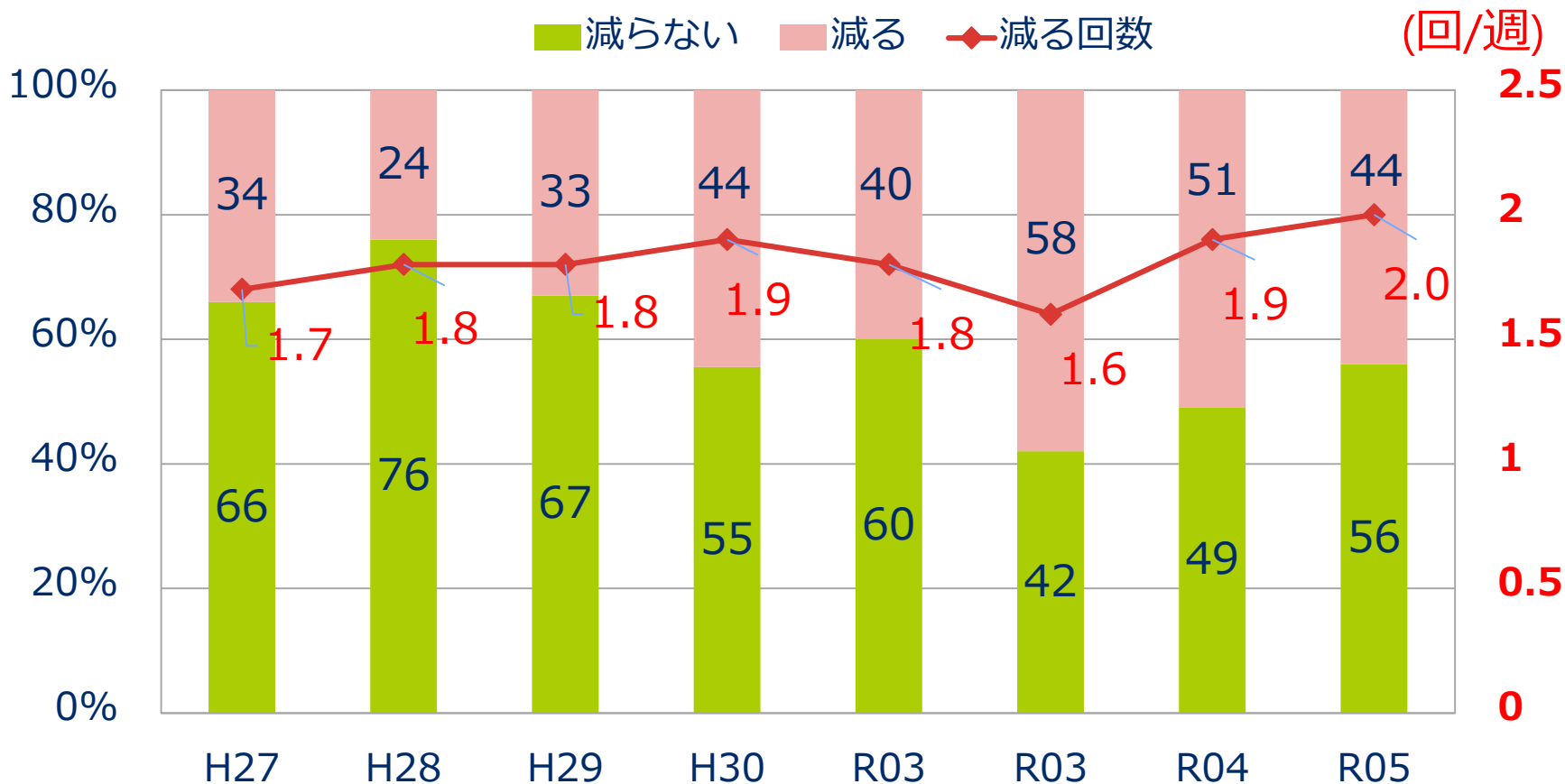
(回/週)

○お出かけ回数が減ると考える利用者が44%となっています。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



はっぴいバス有無お出かけ頻度遷移

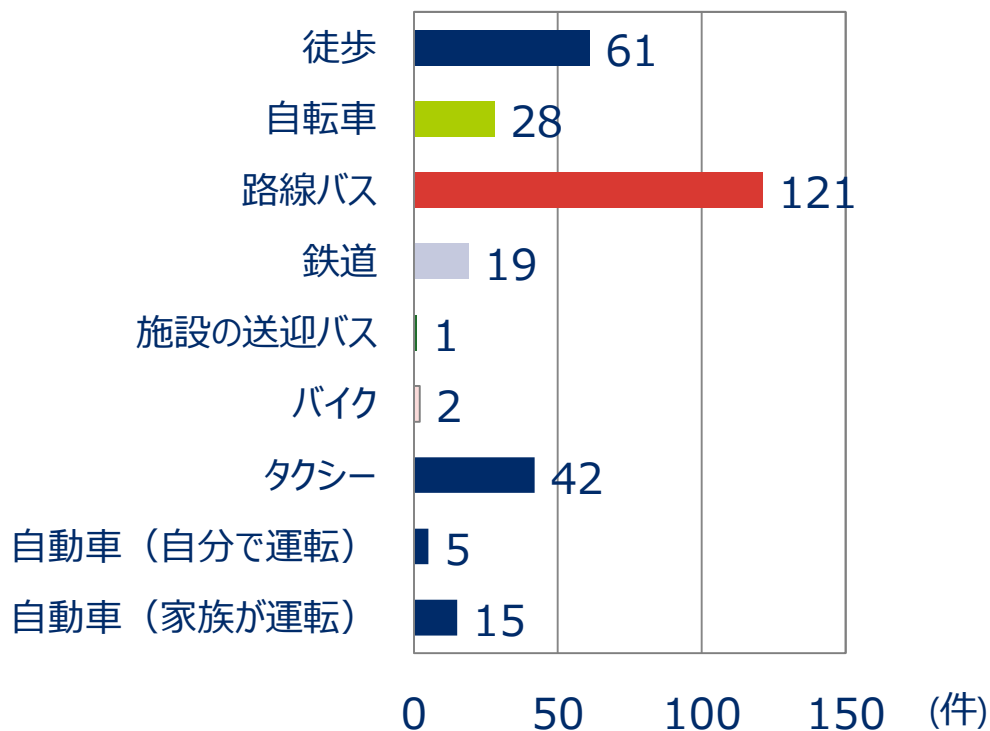


○はっぴいバスが無くなった場合、週に約1~2回おでかけが減る。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



代替手段 (n=178,MA294)



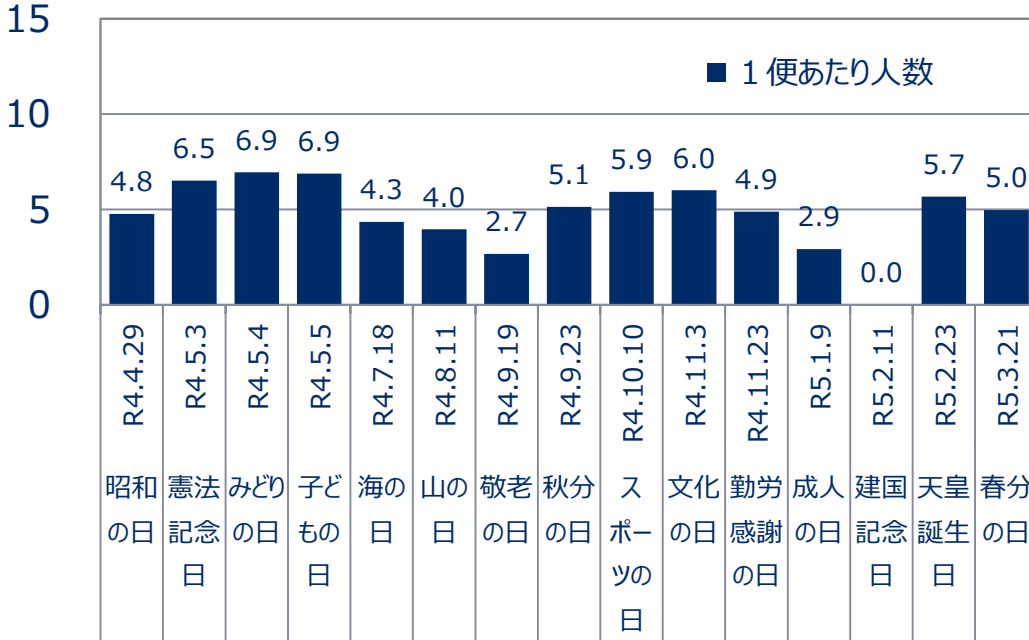
○代替手段として「路線バス」が最も多くなっている。



②多様な世代の外出支援【祝日運行】

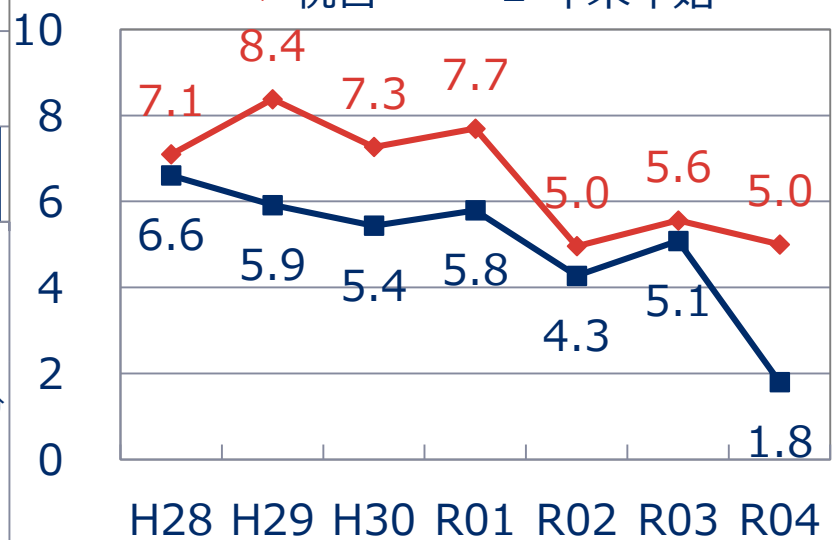
令和4年度 祝日運行まとめ (5.0人/便)

(人/便)



祝日運行等利用者数の推移

(人/便)



※年末年始特別運行 平成21年度～
 ※祝日運行 平成28年度～

○平成28年度から祝日運行を行っているが、平日と比較すると大幅に少ない状況。→車内広告等で更なる周知を図る。



2. 利用状況に関する評価

はっぴいバス利用者数推移

- 1便あたり利用者数 (人/便) 北コース
- 1便あたり利用者数 (人/便) 北東コース
- 1便あたり利用者数 (人/便) 北西コース
- 1便あたり利用者数 (人/便) 西コース



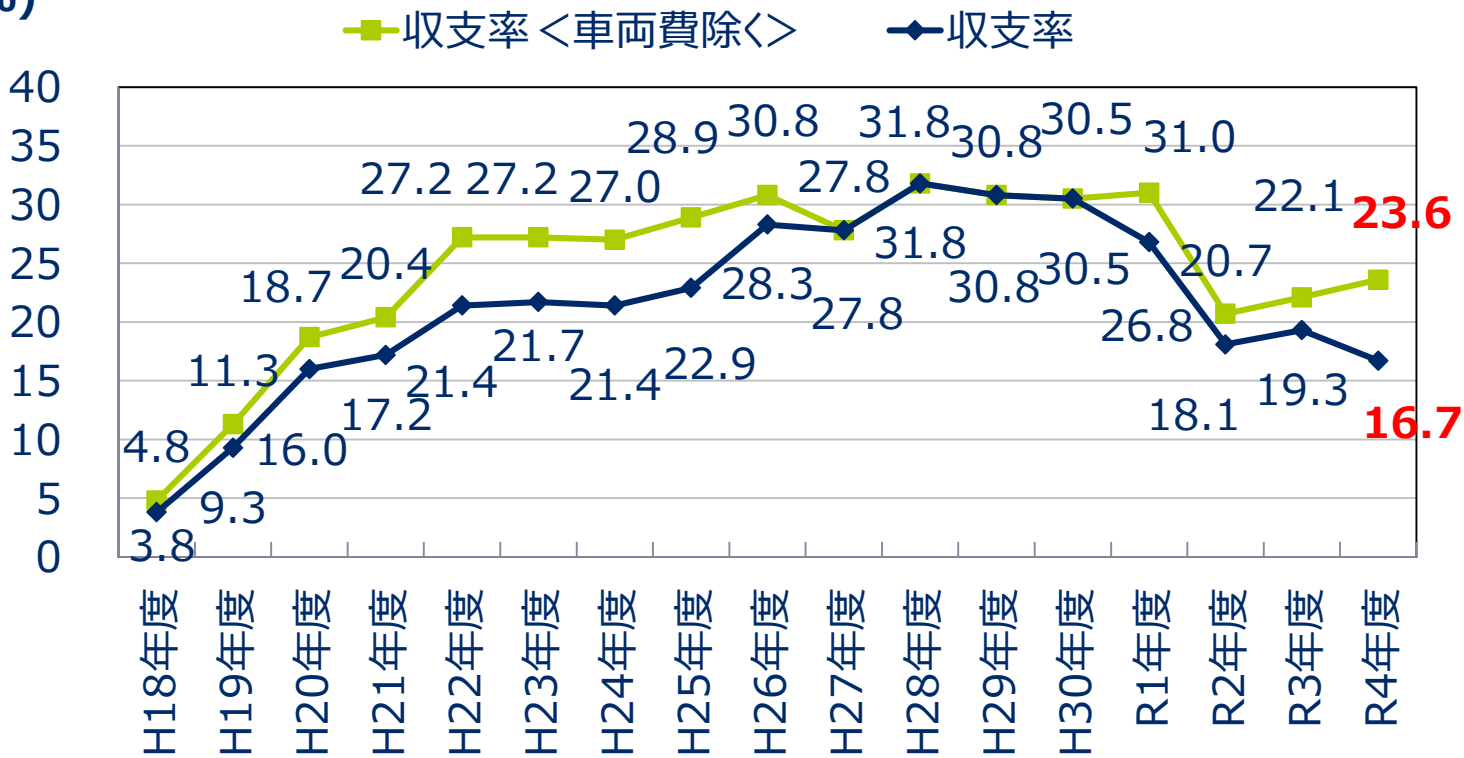
○新型コロナウイルスによる影響で減少傾向となっていたが、令和4年度はコースを増加したため利用人数も増加した。



<参考> 収支状況に関する評価①

はっぴいバス収支率遷移

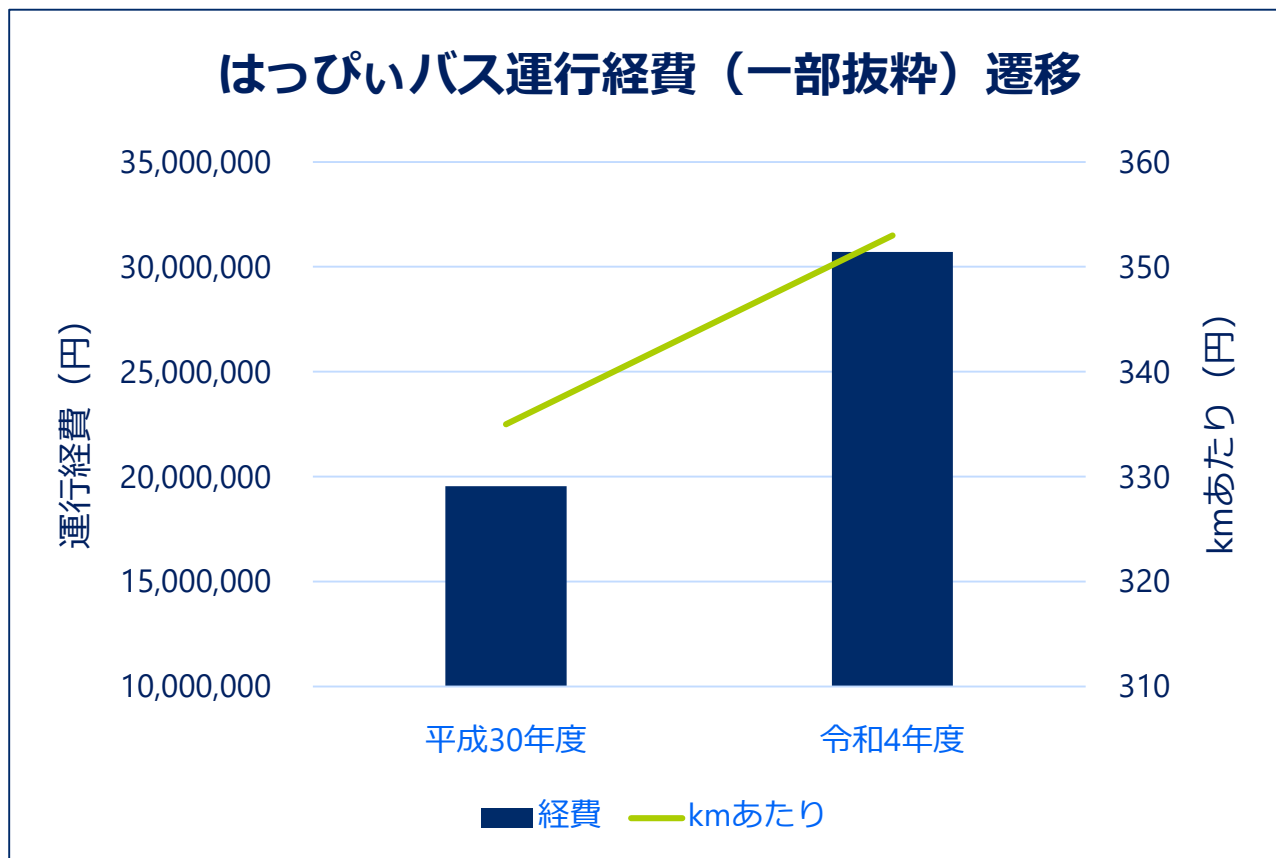
(%)



○昨年度は車両を新たに購入したため収支率は減少しているが、車両費を除いた収支率は回復している。



<参考> 収支状況に関する評価②



○燃料費や人件費といった運行にかかる経費について、総額、kmあたりの額はともに上昇傾向にある。

はっぴいバスの事業評価



項目	指標	令和4年度	判定
事業の目的	公共交通空白地域の解消	解消率 88.4%	○
	多様な世代の外出支援	週3.2回 のお出かけのうち、 週2.1回 のお出かけで はっぴいバスを利用	○
利用状況	利用状況（北東）1便あたりの乗車人員11.3（人/便）	11.0人 < 11.3人	×
	利用状況（西）1便あたりの乗車人員11.3（人/便）	9.4人 < 11.3人	×
	利用状況（北西）1便あたりの乗車人員11.3（人/便）	10.0人 < 11.3人	×
<参考指標> 収支状況	収支率（全体）前年度収支率と比較して改善されたか	16.7% < 19.3%	—

○利用状況については、依然新型コロナウイルスによる影響が大きいですが、通院、買物といった生活に必要な目的での利用で役割を果たしている。

東部バスの事業指標



項目	指標	備考
事業の目的	通勤定期利用者数	
	多様な世代の外出支援	乗込み調査
利用状況	利用状況	1便あたりの乗車人員
<参考指標> 収支状況	収支率	前年度収支率と比較して改善されたか

1. 事業の目的に関する評価



- **事業の目的が達成されているか**を評価

事業目的は、

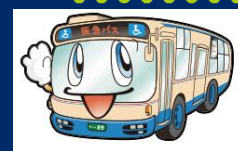
①通勤利用

②多様な世代の外出支援

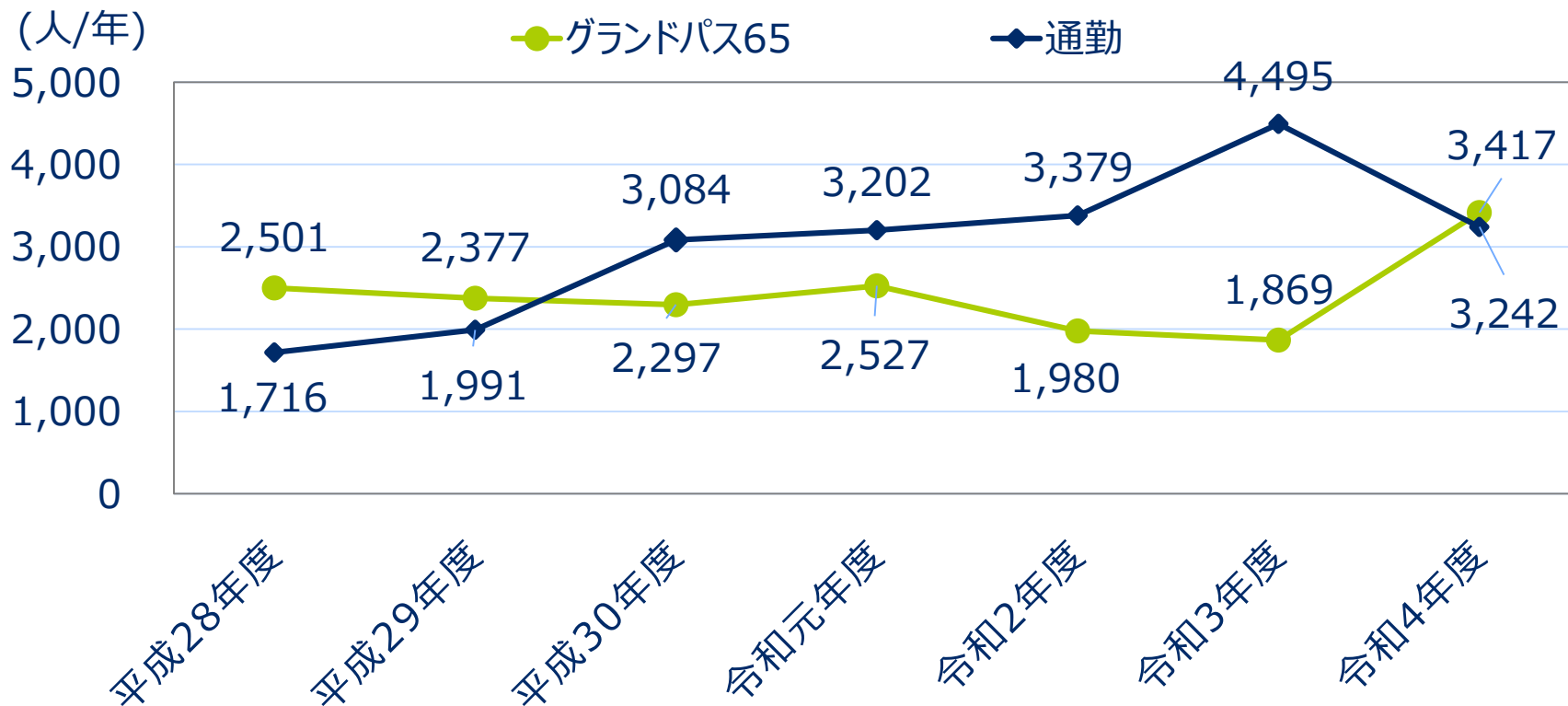
- 事業目的ごとに以下のような評価を実施

事業目的	評価
通勤利用	通勤定期券利用者数
多様な世代の外出支援	利用者の外出頻度の状況を調査 東部バスがどの程度貢献しているか検証

①通勤定期利用者数



通勤・グランドパス65利用者の推移



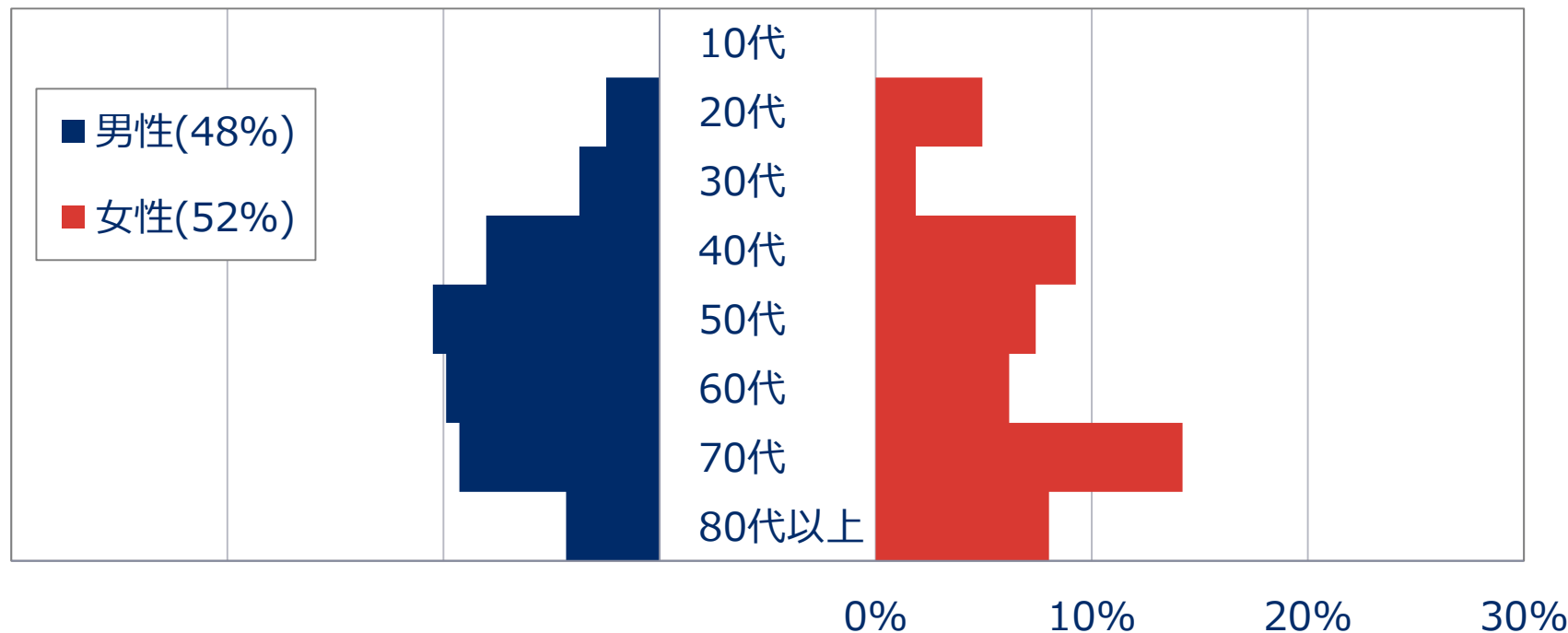
○通勤定期の利用は昨年度と比べて減少しているが、グランドパスの利用者は昨年度と比べて増加している。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



- 東部バス利用者アンケートを実施
 - ・アンケート実施日：令和5年8月31日(木)
 - ・回答者：168人

乗車客属性

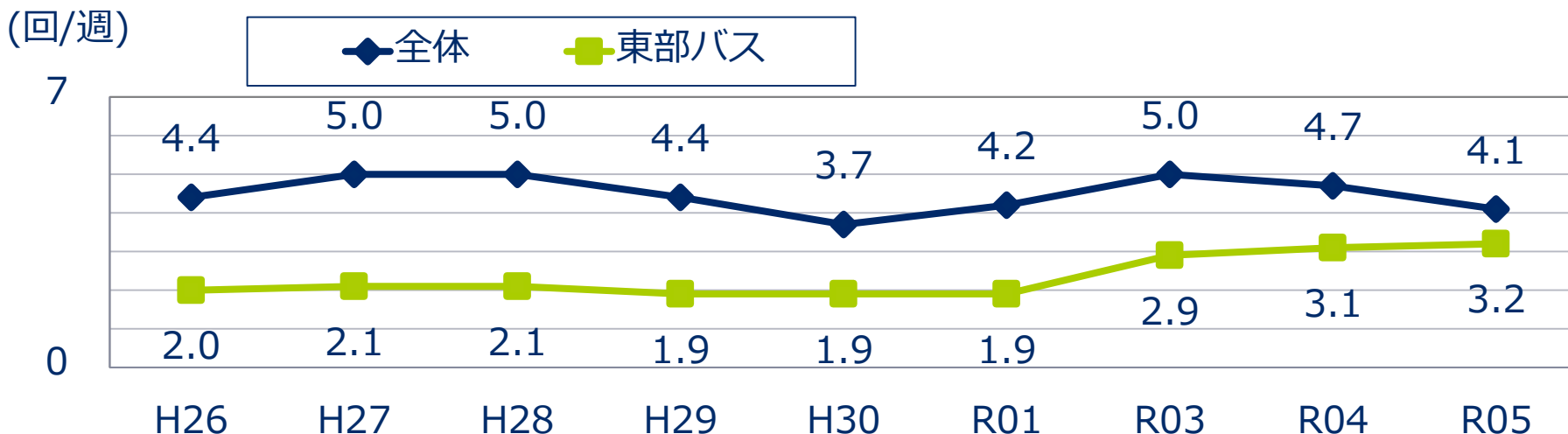


○回答者は女性のほうが多く、60歳以上の方が半数を占める。

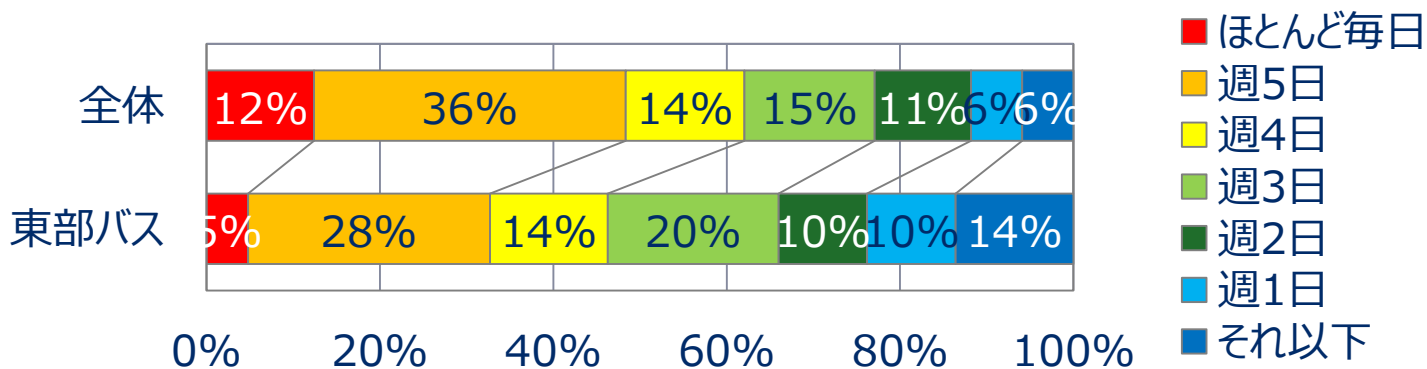
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



お出かけ頻度遷移



お出かけ頻度 (全体/東部バス)

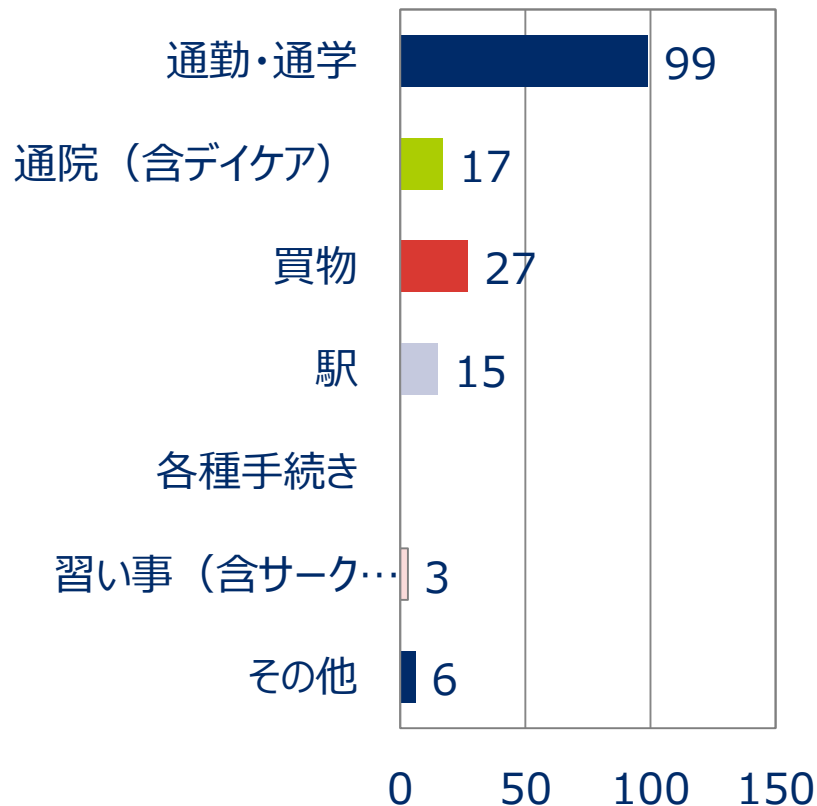


○お出かけ頻度4.1 (回/週) のうち、東部バス利用回数は3.2 (回/週) であり、お出かけの1/2以上は東部バスを利用している。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



利用目的 (SA)

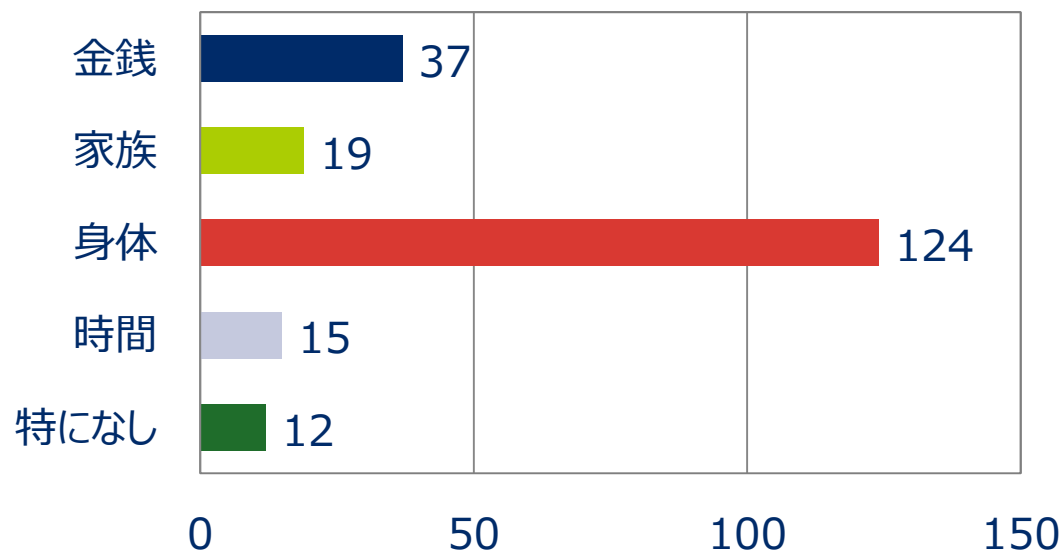


○通勤・通学の利用が半数以上の割合を占めている。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



負担種別(n=169,MA216)

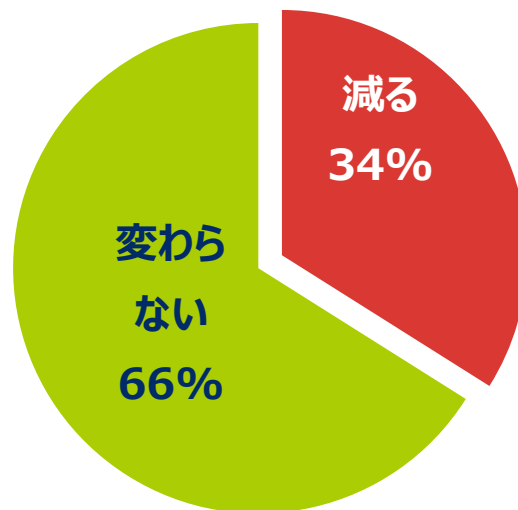


○東部バスがなくなった場合の負担として、「身体」が最も多く、次いで「金銭」となっている。

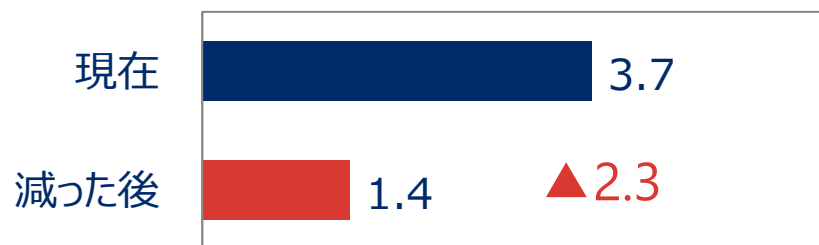
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



お出かけの変化

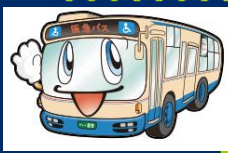


お出かけ回数の変化



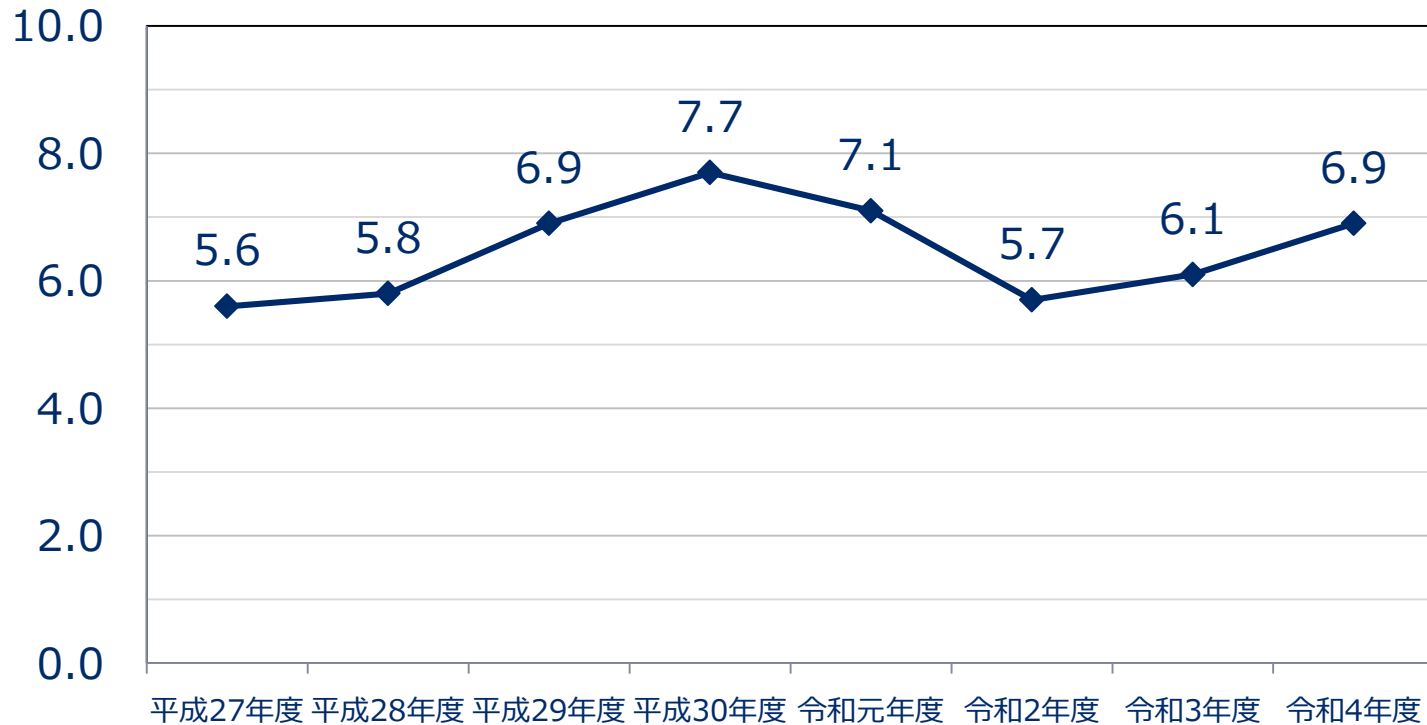
(回/週)

○ 34%の方が東部バスが無くなった場合にお出かけ回数が減少する。



2. 利用状況の評価

1便平均利用者数（人/便）

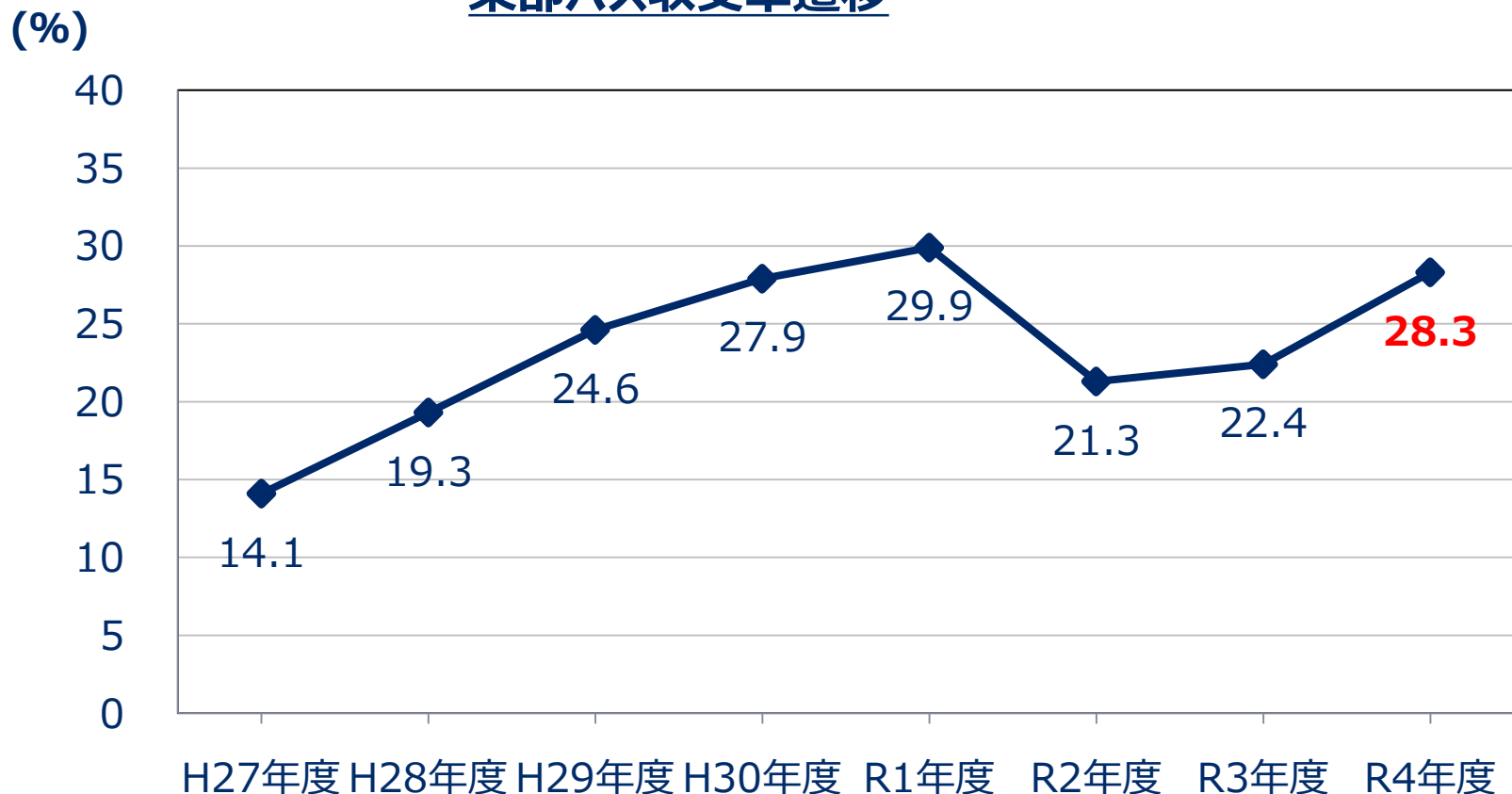


○新型コロナウイルスの影響で令和2年度に減少したが、令和3年度以降は回復傾向にある。

<参考> 収支状況に関する評価①

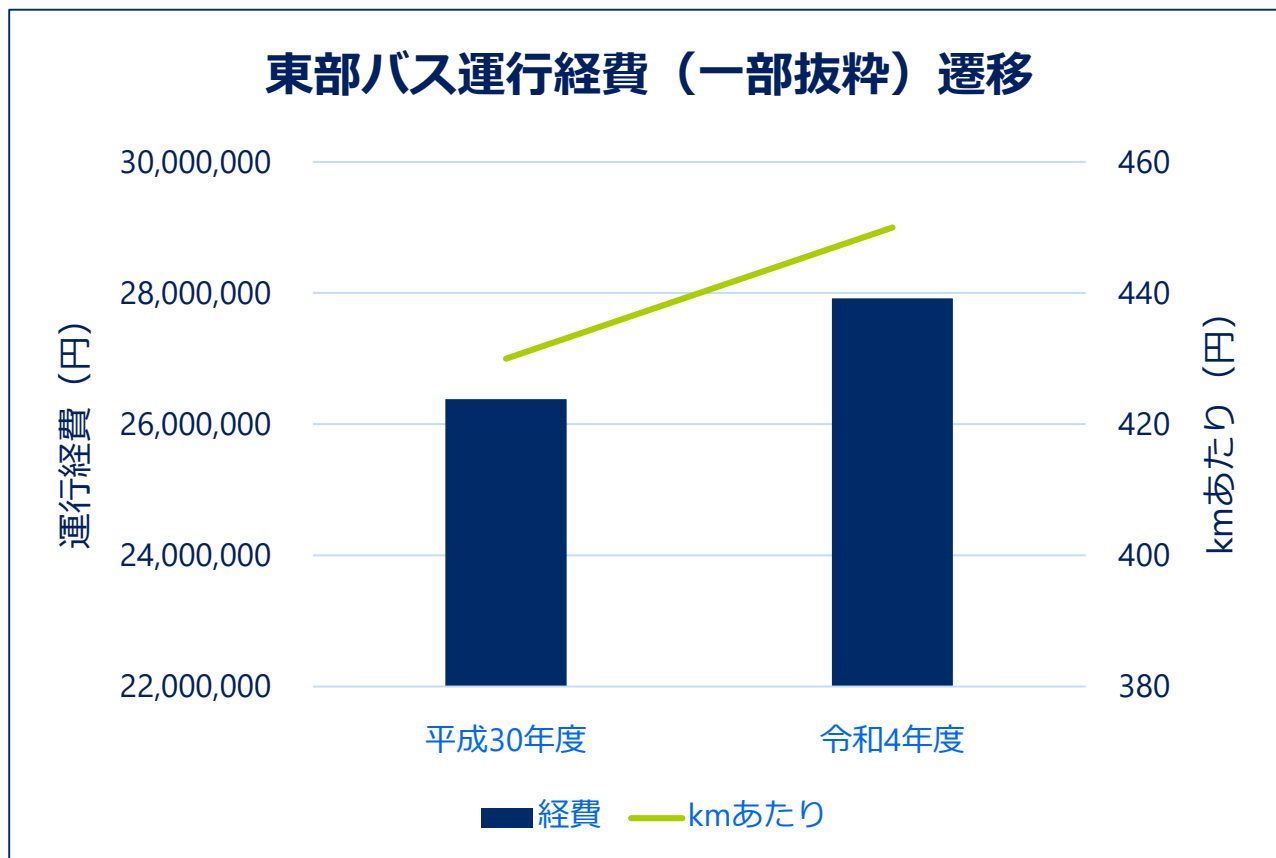
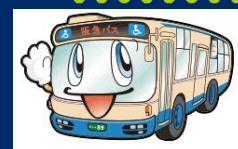


東部バス収支率遷移



○昨年度と比較すると、収支率も少し改善している。

<参考> 収支状況に関する評価②



○燃料費や人件費といった運行にかかる経費について、総額、kmあたりの額はともに上昇傾向にある。

東部バスの事業評価



項目	指標	令和4年度	判定
事業の目的	通勤定期利用者数	<u>3,242人/年</u> < 4,495人/年	×
	多様な世代の外出支援	50代以下の利用者がはっぴいバスよりも多い	○
利用状況	利用状況 1便あたり利用者数	<u>6.9人</u> > 6.1人/便	○
<参考指標> 収支状況	収支率 前年度収支率と比較して改善されたか	<u>28.3%</u> > 22.4%	—